



多様な性について知ろう!

みんなで考えて、誰もが生きやすい世の中へ

「性は男と女の二通り」

「性別に合わせて男らしく・女らしく生きるのが自然」

「異性を好きになるのが普通のこと」

これまでは、それが当たり前とされてきましたが、性のあり方は人の数だけバリエーションがあり、多様な性が存在します。

▶多様な性を次の4つの要素で考えます

① 身体の性	生まれた時に割り当てられた身体の区別による性。
② 心の性(性自認)	自分の性別をどのように認識しているかということ。
③ 表現する性	言葉づかいや髪型、服装など自分をどのように表現するかという性。
④ 好きになる性(性的指向)	恋愛の対象がどのような人であるかということ。異性や同性、両性などがある。

身体の性と心の性が必ずしも一致するわけではありません。好きになる性も異性とは限りません。同性を好きになったり、男性・女性の両方を好きになったり、男性・女性どちらにも恋愛感情をもたない人もいます。

「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」と押し付けられ、生きづらさを感じている人がいます。では、その一人、りょうさんのお話をとおして考えていきましょう。



りょうさん

ボクは「女の子」として生まれました。幼稚園の頃から「女の子なんだから女らしくなさい。女の子なんだからスカートをはきなさい」「女の子なんだから…」と言われてきました。その言葉がすごく嫌で、辛かったけど、誰にも相談できませんでした。

ボクは、「身体は女で、心は男」。小学校でも中学校でも、ずっと誰にも悩みを打ち明けることができませんでした。打ち明ければ、「嫌われる」「いじめられる」「気持ち悪がられる」と思っていたから…

このように、学校生活や日常生活において「身体と心の性の不一致」で悩んだり、困ったりすることがたくさんあります。

りょうさんのお話から、「どういったことに生きづらさを感じていたのか」「自分たちに何ができるのか」を考えてみましょう。

多様な性について考えてみましょう。
一人ひとりが考えることが大切です。



この他にも困っていることや悩んでいることがたくさんあります。みんなで考えて、誰もが生きやすい世の中にしていきましょう。

その人のことを「知る」ことから「気づき」が生まれ、「行動」につながります。